

二輪車交通事故防止連絡会議の概要

毎年警視庁で開催されており、今回は令和 3 年 11 月 8 日(月)14:30~16:00 の間開催された。

■ 出席者

警視庁:交通総務課長、管理官、係長、主任、東京都交通安全協会:星野安全対策課長、日本自動車工業会二輪車安全教育分科会飯田分科会長、東京都公立高等学校長協会:澤梅事務局長、東京都二輪車普及安全協会:赤坂会長、東京オートバイ協同組合:渡辺専務理事、全国二輪車用品連合会事務局:山中氏、(株)カワサキモーターズジャパン企画統括部:青木渉外部長、スズキ(株)東京支店:小久保渉外グループマネージャー、本田技研工業(株)安全運転普及本部:鈴木事務局長、ヤマハ発動機販売(株)安全普及推進本部:宮本副本部長、(株)コミネ:阿知波代表取締役、(株)キズキレンタルサービス:松崎代表取締役、バイク便協同組合:志賀副理事長、SDA:村川。

■ 警視庁の発表内容

➤ 令和3年上半期の二輪車の交通人身事故発生状況

令和 2 年は 2,481 件で死者は 13 人であったが、今年は 2,588 件(+107 件)・死者 18 人(+5 人)と増加し、都内の交通事故死者数 57 人の 31.6%を占めた。事故の発生時間帯は、出勤・退勤の時間帯が特に多くなっているため、出勤・退勤の際はゆとりをもった運転に努めること。また、交通事故発生件数は 30 歳台、40 歳台、50 歳台が多く、件数と死者数は、30 歳台:501 件・3 人、40 歳台:562 件・3 人、50 歳台:508 件・3 人であった。

事故類型別発生件数では出会い頭、追突、右折時、車両単独の順に多く、件数と死者数は、出会い頭:643 件・2 人、追突:428 件・3 人、右折時:383 件・1 人、車両単独:290 件・0 人であった。また、行動類型別では、直進 68.8%、右折 5.2%、発進 3.7%、左折 2.6%の順であった。

違反別発生状況では、安全不確認:345 件・1 人、交差点安全進行義務違反:296 件・2 人、動静不注視:183 件・0 人、ハンドル・ブレーキ操作不適:170 件・4 人の順であった。

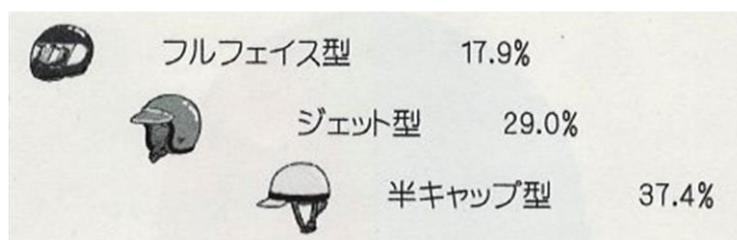
➤ 二輪車利用者に対するヘルメット及び胸部プロテクターの着用状況調査結果

令和 3 年 9 月中旬から 10 月中旬にかけて 3,202 人を調査した。括弧内は昨年データである。

・ ヘルメットの形状別着用割合:

フルフェイス型 34.8%(31.0%)、ジェット型 37.8%(40.0%)、半キャップ型 27.2%(28.7%)、その他 0.2%(0.4%)。

・ あごひもの結束状況:適正に結束 72.6%(73.1%)、ゆるく結束 23.1%(21.6%)、結束なし 4.3%(5.3%)。右図はヘルメット形状別の不適正な着用の割合。



「ゆるく結束」「結束なし」の割合

胸部プロテクターの着用率は 3,162 人について調査した結果 8.6%であった。2014 年:7.2%、2015 年:7.1%、2016 年:7.2%、2017 年:7.1%、2018 年:7.8%、2019 年:8.4%、2020 年:8.4%、2021 年:8.6%であり、微増であった。胸部プロテクターの種類別では、ウェア内蔵型:54.8%、ハードタイプ:39.3%、エア・バッグ式:5.9%であった。

また胸部プロテクターを着用しない理由は、着用が面倒:41.3%、値段が高い:26.2%、プロテクターを知らない:15.5%、恰好が悪い 2.3%、その他 14.6%であった。

2018 年~2020 年の二輪車乗車中死者の損傷主部位は頭部:47.3%、胸部・腹部:39.3%と、頭部が最も多くなっている。

以上